特集
昭和

MESSAGE

昭和が持っていた曖昧さ

子供の頃の記憶に残っているのはやはり貧しさです。町には色があまりなく、色彩に飢えていました。赤一色でも女の人の唇にはなく、ぼんやり霞んだうっとうしいグレーがあった感じです。ただ、少しも不幸ではなく、小さい幸せがいっぱいありました。

夏休みは、排水路みたいな川で嬉々として泳ぎました。帰りは、畑のトマトを必死に1個ちぎって、畝の隙間で友だちと食べました。あれくらい興奮することはなかったです。道側のトマトが何個か無くなることはお百姓さんも計算済みで、暗黙の境界線があって、その曖昧さの中で子供は子供らしく生きていました。あの時に食べた香り高いトマトの味は忘れないです。

横町の飲み屋ののれんがちらっとめくれる度に美空ひばりの『波止場だよ、お父つぁん』が流れます。歌はイヤホンで聞かなくても道端に落ちてました。子供でも落ちてる演歌を唇に乗っけて、その一節を盗んで帰ります。また、福岡は朝鮮動乱時の出撃基地（米軍板付基地）があったので、アメリカがすぐ横にありました。

うちは小学4年の時にテレビを買います。テレビを買えるような家庭ではなかったんですが、時の首相池田勇人が「所得倍増」と謳うと、親父の給料がみるみる上がっていきました。楽しい番組が次々放送され、ジーパンをはいた坂本九が歌う『上を向いて歩こう』は「敗残の傷痍軍人のように地べたを睨むんじゃなくて、我々はこれから真上を向くんだ」というメッセージに聞こえました。アメリカのカルチャーはコーラやジーンズで私たちを圧倒してきましたが、中学1年の夏、ヒットチャートではアメリカンポップスが消え『She Loves You』『Can't Buy Me Love』が入る。日本中の若者がイギリス出身のビートルズに熱狂しました。その頃から日本人は、アメリカ以外の世界を見渡し始めたと思います。

大学1年には大阪万博EXPO'70。怪人岡本太郎がつくった『太陽の塔』の下の「お祭り広場」では、アルバイトの学生達がギター1本で歌っていました。生ギターで芸能に参加できると分かった瞬間、日本中の若者がギターを握りました。当時のフォークソングは「旅」ばかりテーマにしていました。「♪人は誰もただ一人旅に出て～」とか「♪青年は青年は荒野をめざす～」とか。その歌にのって私たちも東京へ行くんです。「生ギターば抱えて、日本中、歩き回ろう！」という夢を叶えるため、博多を飛び出しました。でも売れなくて、母親に申し訳ない気持ちで『母に捧げるバラード』を書いたら、それが売れるのなんのって。学生運動が行き詰まって、みんな古里に帰り始めた頃でした。誰もが母親にすまないという思いがあったんじゃないかな。

だけど次の年には、ユーミンがデビューし歌の流れが変わります。浮気をしてるらしい亭主を義理の母に言い付けるために、付けたタイトルが『ルージュの伝言』ですよ。銀行家でもある小椋佳は「♪真っ白な陶磁器を眺めてはあきもせず～」と歌う。そして、井上陽水が「♪さみしさのつれづれに手紙をしたためています～」と。かつてのフォークソングは共通体験を歌にしたけれども、個人体験を歌にしていく時代にあっという間に変わっていきました。

先日、ラジオの中で「厳しい肉体労働のアルバイトの仕事が終わると、棟梁が『兄ちゃん、今日はありがとな』と言って冷たいビールをくれるんです。まだ18歳だったけど、ほんとに美味しかったです」という話があり、末尾には「何せ、あの頃は昭和でして」と付きます。この曖昧さです。

うちはたばこ屋だったんですが、私は釣り銭をちょろまかして映画を見に行ってました。それが母親にばれて、背中をほうきで叩かれました。後年、週刊誌の人に「お宅の坊ちゃんは劇団とかに入れられたことはあるんですか」と聞かれた母親は「いや、一切ない。ただ一つだけ思い当たるのは、たばこの釣り銭をちょろまかして映画をよく見に行ってた。もしかしたら、その銭で、あの子は勉強しよったとでしょうな、映画ば」って。そして「子供には、大人が見えない未来が見える時があるけん、大人は、それは良かこと、悪かことって、あんまり分けんほうがよかですよ。時には物を盗むこともありますたい。盗み癖のある子じゃなければ、人の芸を見て盗むことはできんですばい」と、洒落たことを言ったらしいです。

この貧しさと曖昧さこそが、戦後の廃虚の日本を立て直した昭和人のエネルギーではないでしょうか。私たちが昭和を懐かしんでいるのは、どう考えても、平成・令和の日本は、焼け跡の昭和から立ち上がったという事実の上にあることを無視できないからではないかと思えてなりません。

残堀川緑道公園で遊ぶ子供達

武田 鉄矢
TAKEDA Tetsuya

プロフィール
昭和24（1949）年4月11日生まれ。福岡県福岡市出身。O型。福岡教育大学卒業。昭和83（2008）年に名誉学士授与。昭和47（1972）年、フォークグループ「海援隊」でデビュー。翌年「母に捧げるバラード」が大ヒット。日本レコード大賞企画賞受賞。昭和52（1977）年には山田洋次監督の映画『幸福の黄色いハンカチ』に出演。「3年B組金八先生」「101回目のプロポーズ」「水戸黄門」などのドラマにも出演。また、昭和86（2011）年に大動脈弁狭窄症のため、手術を経験。